

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600609		
法人名	有限会社 ニフコ		
事業所名	グループホーム 田舎		
所在地	岐阜県揖斐郡池田町沓井 603		
自己評価作成日	平成30年10月20日	評価結果市町村受理日	平成31年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai-gokensaku.nhi.wgo.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&ji_gyosyoId=2172600609-008PrfOj=21&VersionId=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成30年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな田園風景に囲まれ中庭と畑のある築五十年の民家を耐震補強とスプリンクラーで安全を確保しバリアフリーにしたホームです。利用者とスタッフがあまり気を張ることなく、自然体で一日一日を楽しく過ごしていけるような場でありたいと思っています。かかりつけのクリニックの往診、看護職員と介護職員の連携を密にし、医療面でのサポートを充実させ、ご利用者、ご利用者家族に安心して健康にお過ごしいただけるように努めています。日々、業務の中で気付いたことを入居者やスタッフと話し合い、やりたいことや、やれることを増やし、楽しく暮らすための改善に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者と共に「生きがいを見つけ、明るく楽しく生活する」事を目標とし、利用者一人ひとりの持てる力や能力を見つけ出し、支えていくことに取り組んでいる。笑顔や会話が増えたり、表情が明るくなったりする利用者に職員も仕事のやりがいを感じモチベーションを高めている。代表者は、役場からの複数の委員を引き受け、会議や研修会に積極的に参加し、そこで得た情報を運営に活かすと共に行政と協力関係を築いている。利用者の現状から終末期に向けての相談や質問が多くなり、運営推進会議で議題に上げて話し合ったり、家族・職員・かかりつけ医や協力医と相談しながら家族の希望に応えられるよう終末期の支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1 (1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営推進会議や地域の方々との話し合う場を通じて、高齢者の在宅での暮らし、在宅医療介護の在り方などについて共に考え、語り合う場としている。	職員は、利用者の日々が理念にそった暮らしであるかを振り返り、一人ひとりの役割や生きがいを見つけ出し、明るく楽しく暮らせるための支援に取り組んでいる。	
2 (2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進委員会を通じ福祉委員、民生委員と介護全般、高齢化問題や防災の問題について話し合っている。地域の理髪店を選び、送迎や訪問理容で理髪している	地域の喫茶店・理髪店・商店等を利用し、散歩時に会話をしたり、職員の子供や一緒に遊びに来る子供たちとふれあったりしている。代表者は、高齢化の進む中、地域とのつながりを継続していく取り組みが必要と捉えている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	児童養護施設児童のインターンシップを受け入れ介護について仕事としての介護について話し合っている。		
4 (3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、地区の福祉委員、民生委員などと高齢問題、認知症問題、防災について話し合い、各々の意識やサービスの向上を図っている。	会議では、事業所の状況報告を行い、意見を聞いていている。災害時の対応を話し合ったり、会議の参考資料を地域で使いたいとの要望に応えたりしているが、運営推進会議の開催が不定期である。	概ね2ヶ月に1回の定期的な運営推進会議の開催が望まれる。
5 (4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者は認定審査会や池田町ケア会議、ケアマネ連絡会に参加し、役場や揖斐広域の担当者と日常的に接触、入居者やスタッフの状況について報告相談し、様々な助言を得てサービスの向上を図っている	代表者は役職上、認定審査会や会議等で役場に出向く事が多く、担当者とは相談し易い関係を築いている。事業所の現状や利用者の困難事例等の対応に付いて意見や助言を受け、問題解決に努めている。	
6 (5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について日常的にスタッフと具体的、現実的に話し合い、身体拘束禁止の意識と人権意識を高めている。	代表者及び職員は、身体拘束の具体例を挙げて利用者の自由と安全を保持する支援の在り方について話し合い、身体拘束のないケアに取り組んでいる。言葉や対応についても否定的にならないよう心がけている。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	難しい法律論ではなく、具体的に「どのような意識や行為か?」など日常的な話合いの中で理解を深め人権侵害や虐待の防止に努めている。		

グループホーム 田舎

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者や管理者は権利擁護について、積極的に外部識者や社会福祉士と話し合い学ぶ機会を持つよう努めている。持ち帰って日常的にかみ砕いて職員に伝えるよう努めている		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、できるだけ多くの家族や関係者に対して充分に説明し、入居に際しての理解と納得を得ている		
10 (6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が管理者とできるだけ本音で話せるような関係作りに努めている。毎月末の請求書を個別訪問して要望、苦情を聞き取っている。ターミナル期について相談されることが増えたので丁寧に繰り返し説明している	毎月の請求書を自宅に届け意見や要望を聞いている。家族の面会も多く話し易い環境を作り、要望等は検討し対処している。遠方の家族を思う利用者が携帯電話で話しあえるように関係者と調整を行った。	
11 (7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日常業務についてスタッフの意見を出来るだけ取り上げ業務改善を図り、改善意欲や達成感を得られるように努めている。	代表者・管理者は、日頃から職員の提案や要望を聞くようにしている。代表者は、職員の意見を取り入れることで、やる気を引き出し働きやすい環境づくりに努めている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況や能力の向上を積極的に評価し、合理的で働きやすくやりがいのある職場環境をつくるために努めている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で行われる講習会を紹介し、参加を呼びかけている。講習会の参加費用の一部または全額を助成している。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村や地域の福祉事業者の勉強会、地域のケアマネ連絡会に参加し、意識とスキルの向上を目指して情報交換をしている。得た情報をスタッフに伝えスキルアップを目指している		

グループホーム 田舎

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族より在宅時の生活状況や趣味、嗜好を聞き取りするなどして本人が安心して暮らしていく環境作りに努めている		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族親族の間に必要に応じて適度に介入し、本人と家族を一体的に支えることを目指している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	急激な生活環境の変化を緩和するため、デイユースやショートステイの利用など個別に臨機応変に柔軟に対応、できるだけ抵抗や不安感の少ないサービス導入を目指している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が有している生活力を尊重した施設を目指す。現実的には認知力やADLの低下とリスクから厳しい部分もある。引き続き利用者の生活力を見い出すよう努めていきたい		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の理解を得ながら、短期間家族宅で暮らすなどすることを提案し家族との関係の維持に努めている。家族の仕事都合を考え、面会時間の自由度を高めている		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の理解を得ながら、短期間家族に戻り暮らすなどを提案し家族との関係の維持に努めている。地域の行事や馴染みの方々との面会を提案している。	節目の祝いや行事を、自宅で家族に囲まれて過ごすことの大切さを提案し、家族の介護負担が重くならないよう配慮しながら行っている。在宅時のケアマネジャーから情報を得て馴染みの友人の訪問を依頼している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を注意深く観察し、お互いが生活の質を高めあえるような関係を築けるよう見守り支援している。利用者間の軽度のいざこざも社会的な刺激と見守っている。		

グループホーム 田舎

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入居された方を訪問したり家族との連絡を適度にとっている。スタッフと話し合い自施設の在り方について前向きに話し合う材料としている		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23 (9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にとって できるだけ居心地のよい場所、健康に安心して暮らす場でありたいと考え、その実現に努めている。本人が目標を得られるよう支援している。	利用者の言動を注視し、心情を察するようにしている。選択肢を用意したり、言葉かけや話し方を工夫したりして、利用者が受身でなく自己決定する場面を多くし、希望や意向の把握をしている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や嗜好を家族からの聞き取りなどや日々の観察で把握し、暮らしやすい環境作りに努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察、記録し スタッフ間で相談しながら生活力、ADLや生活力の把握に努めている		
26 (10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者やスタッフで話し合いながら 介護計画を作成している。また現場のケアの中でも活発に意見交換し見直しに反映している。	自宅訪問時や面会時に家族の希望を聞き、日々の支援に携わる職員の意見を入れて介護計画を作成している。定期的に行うモニタリングから計画に沿っていない時や状態変化時には見直しをしている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況健康状態を観察記録し、管理者スタッフ間で相談協議し、日々の介護に実践しケアのレベルアップに努めている		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出レク、緊急時の病院送迎など、利用者や家族の状態、状況に応じて臨機応変に柔軟、迅速に対応している。		

グループホーム 田舎

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理髪店の出張による整髪や園芸ボランティア、散歩の同伴など軽度の身体レクをお手伝い頂いた。		
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	症状に応じて本人あるいは家族の希望する医療機関で受診している。施設かかりつけ医に定期的な受診をお願いし、利用者の状況を把握、日常的に見守って頂いている	協力医に変更して訪問診療を受ける利用者もいるが、従来のかかりつけ医や専門医を家族の付き添いで受診する人もいる。受診時は、利用者の状況を書面で渡し結果報告を受けて情報を共有している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し常時連絡を取りながら利用者の日々の健康的な生活を見守っている		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の疾患の経過、生活状況について詳細に報告している。退院が近づくと病院関係者と連絡を密にし、家族、かかりつけ医とも相談の上、早期の受け入れに努めている		
33 (12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重篤となった場合や様々な予後の状態を想定して出来る事と、家族側が必要な事柄についてそれぞれ具体的に説明相談している。運営推進会議においてよく終末期の話題を取り上げている	契約時に急変や重度化の対応指針を説明し、同意を得ている。時間の経過や状態の変化で考えが変われば変更出来ることも伝えている。ターミナル期の事業所の援助方針を基本に主治医・職員・家族が連携しながら終末期の支援に取り組んでいる。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	代表者は救急救命講習を受講済み、看護師(管理者)と共に日常的に様々な場面で救急救命法や急変時の対応について説明し、スタッフ全体のスキルアップに努めている		
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難方法や非常時備品について、日常的に考え、定期的に避難訓練を行っている。運営推進会議などを通じて協力体制の構築を目指している。トリアージに関して話し合っている	夜間想定を含む避難訓練を実施している。台風時停電を経験し、照明・調理等生活に必要な物品の確認が出来た。今後の訓練に実践的な被災訓練を加え、災害時の初期対応などを運営推進会議で検討している。	

グループホーム 田舎

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の生活史と人格を尊重し応対をするよう努めている	利用者の出来ることや得意分野を見つけ、達成感や自信をもてるように支援している。日々変わる利用者の話にも耳を傾け、言葉や話し方を考えて対応し、利用者の尊厳を守るように努めている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者自身の思いを聞きだす為に努力している。思いを上手く表現できない場合は適切な選択的な質問を行い、自己決定を促す努力をしている		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定を尊重し日々様々な暮らし方を利用者それぞれが実現できるよう努力している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	安全と清潔と健康に配慮し、適切な身だしなみができるよう支援している		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	芋の茎の皮むき、筋取りなど下ごしらえなどお願いしている、台拭きやエプロン畳みなどできることをできそうな人にお願いしている。	切り干し大根やゆず味噌作り、調理の下ごしらえ、後片付け等利用者と一緒に行っている。全員で食卓を囲んで会話を楽しみながら食事をしている。介助の必要な利用者も皆と一緒に食事が出来るように支援している。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー、摂食量を管理、必要に応じて個別に水分のインアウトや分割食などを行い栄養と水分の摂取を管理している		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。毎晩入れ歯の洗浄を個人の状況に応じて指示、見守り、全介助で行っている		

グループホーム 田舎

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンと能力、状況に応じて適切な排泄介助を行っている。固定的に独断的に考えず様々な変化に応じて柔軟に見直すよう努めている	トイレでの排泄を基本とし、排泄パターンや状況に応じてトイレへ誘導している。夜間は時間を見計らって出来る限りトイレでの排泄を支援している。安眠を希望する利用者には紙パンツを使用する時もある。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬剤に出来るだけ頼らない自然な排便を目指している。食物繊維の多い食材の積極的な摂取、適度な運動、座位保持を行ったり漢方系のお茶などを服用している		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	庭に柚子が沢山なので冷凍保存し、通年、入浴時使っている。ゆっくり温まりたいなどの希望ができるだけ聞き入れて入浴していただいている	柚子湯の他、季節に応じて菖蒲やどくだみを使って入浴を楽しんでいる。入浴時間や温度は利用者の希望に沿って支援している。入浴を嫌がる人には、日にちを変更したり誘い方を工夫したりして対応している。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人と同居者の安全で健康的な生活を優先し、それぞれの希望や生活習慣を配慮した就眠環境作りに努めている。それによって消灯時間は異なっている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者カルテに薬剤の説明書をファイルして薬剤の詳細について情報を共有している。降圧剤など取扱に注意を要するものはことあるごとにスタッフに事故例を上げ何度も説明している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者それぞれの生活歴や趣味嗜好を家族との話しや日々の生活の中から見つけ出し生活に彩りをあたえる支援をしている		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭や畠、施設周辺の散歩や、気分転換の為、近場の観光地へのドライブなどを入居者の体力を考えながら行っている。できるだけ毎日散歩に努め体力気力の維持向上に努めている	散歩や中庭に出て花や畠の野菜を見て楽しんでいる。コーヒーを飲みに喫茶店やコンビニへ行っている。地域の理髪店にも事業所の送迎で出かけている。また、季節毎の花見やドライブで名所見物する支援も行っている。	

グループホーム 田舎

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を手持したり使えるように支援している	金銭を使うことはなかなか無いが、チラシを見ながら野菜の値段を話すなどして金銭感覚の保持に努めている。可能であれば外出時に金銭を使用するサポートをしている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の挨拶状や年賀状を書くことを支援している(表書きはスタッフ)		
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの生活環境を配慮した在来木造田舎造りの家屋を施設として利用しつつ、生活上の安全を考慮した改装を行い、また利用者の状況に応じて随時、造作改修を行い安全の維持と健康な生活環境の実現に努めている	馴染みのある障子や建具・柱を残して、リフォームを行っている。利用者一人ひとりの不自由さを気づく度に小さい改修を行い、安心して暮らせる環境づくりに努めている。広い中庭では季節毎の野菜作りや花を育てて四季を感じる場となっている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いで過ごせるような居場所の工夫をしている	日本家屋は比較的死角の多く、利用者はそれぞれ『お気に入り』の場を見つけることができやすい。スタッフはそれぞれの居場所を尊重したさりげない介護に努めている		
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全と安静が確保できる前提で本人が慣れ親しんだ物品を持ち込み 安らかに気持ちよく暮らせる様にと考えている	布団や身の回り品は使い慣れた物や好みのものを持参してもらうよう説明している。寝具・テレビ・時計・趣味の作品・家族写真等個々に使い慣れた物や大切な物を置いて安心して暮らせるようにしている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所、トイレへの経路などを入居者の視点を考え見やすく表示している。体格や状態に応じて支えることのできる手すりを設置している。		